

令和6年度学校評価について

1 本年度の重点目標

- 1 個性の伸長と進路実現を目指し、自ら学ぶ意欲や態度の育成に努める。
- 2 思いやりの心と基本的な生活習慣の定着を図り、自ら律する心の育成に努める。
- 3 生命を尊ぶ態度や健康・安全意識を高揚し、たくましい心身の育成に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	教育課程については、生徒と保護者の評価に差がある。近年、宿題のような学校からの強制的な学習課題が減少傾向であることから、学習活動の様子が家庭まで伝わりにくいかもしれない。教育課程上は多様な進路希望に応えられる内容となっており、個々に応じた対応が可能。教職員の評価が大きく低くなったが、生徒数減少による間口減（教員数の減少）が現実的な問題となっており、今後の中標津高校で持続可能な教育課程の見直しの必要性を感じているのかもしれない。学習指導については、保護者評価が低い。低い理由の一つとして、一部教員の授業で、生徒から評価方法や指導方法が適切ではないのではという意見がでることがあり、家庭で情報が共有されたこともあるかもしれない。そのような事例の時は、都度担当教諭に指導し、改善を促してきた。多くの教員は教材研究や授業準備などに力を注ぎ、より良い学習指導のための努力をしている。	今後も、生徒の夢や希望が叶う教育活動をお願いしたい。「進学も就職もN高」の実績をどんどん地域にPRして欲しい。授業内での探究的な学びや、ICT活用による学びの充実をさらにすすめてください。応援します。学校課題に係わる多様な課題について研修を着実に進めてほしい。教員間の合意形成を大切にしつつ業務の簡素化を図って欲しい。
改善方策	授業ではすべてのHR教室に電子ホワイトボードを配置した。教員によって個人差はあるが、学習用端末の活用なども進んでいる。「必ずICTを使わなければ」ではなく、学習活動の内容を鑑みながら、アナログとデジタルの併用が行われている。授業については評価方法や授業改善についての校内研修を今年度も行き、教職員からは概ね好評であった。次年度も各自の研鑽をさらに進めて行く。	
生徒指導	基本的生活習慣の確立に向けた指導がしっかり行われているかについては職員評価のみ大きく低下。生徒、保護者評価は肯定的。いじめについては生徒・教職員評価とも下がったことは危機感を持たねばならない。教職員評価が一定以上あるのは年2回の「いじめアンケート」と追跡調査の結果である。学校行事についてはコロナを挟み、また間口減・教員減を受けて新たな形を模索した。企画そのものに対する賛否様々な意見と運営上の改善点はあるものの、生徒のために取り組んだという自負が教職員1人1人の中にもあったということが考えられる。	不登校やSNSトラブルなどの教育課題に対し学校だけでなく外部機関と連携、協力しながらの対応が望まれる。生徒が学校生活を楽しく送れている部分については、高い値として解釈して良いのではないかと。外部との連携を図り、生徒の悩みなどを相談しやすい環境作りをしてほしい。支援委員会による個別対応は大変であると思うが必要な生徒に継続的にすすめて欲しい。
改善方策	ネットやスマホの登場でいじめの形態が変化してからは学校で対応しきれないことも多く存在するため、今後は警察との連携方法を構築し、全教職員で共有する必要がある。また、心の悩みに対応するべく、スクールカウンセラーとの連携も行っていく。	
キャリア教育	キャリア教育については全体的な評価としては及第点に達していると言える。さらに保護者・教職員における評価の向上が必要	進学実績は素晴らしい一方で、入試倍率が低調であることから管内の中学校への広報活動も大事である。様々なことについての情報提供は保護者の信用を得るために最も大切である。積極的情報公開をしていただきたい。職業体験などは町の仕事を知る大切な機会なので町に相談してほしい。
改善方策	保護者に対しては、キャリア教育の情報や成果の発信が不可欠であると考えられる。既存のお便りや学校ホームページのみならず、より効果的な情報発信の方法が望まれる。職員に対しては、日々の学校教育活動の中で、生徒一人ひとりのキャリア実現に関わっているという自己効力感を高めるような工夫が必要である（「キャリア教育は学校教育活動全体で行われなければならない」）。いずれにせよ、キャリア教育の主役は言うまでもなく生徒自身である。たとえどのような工夫を凝らしても、それが生徒自身の主体的な進路決定に資するものでなければ意味がない。今後も様々な工夫・改善を行う中で、生徒自身の自己決定を後押しするような教育活動が求められる。	
公表方法	・自己評価、保護者評価、生徒評価を学校だより及びホームページにて公開・保護者及び学校関係者へ評価結果文書を配付	